2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月13日

上 場 会 社 名　　ＦＩＧ株式会社　　上場取引所　　東・福

コ ー ド 番 号　　4392　　URL　https://www.figinc.jp

代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　村井　雄司

問合せ先責任者　（役職名）　取締役常務執行役員　（氏名）　岐部　和久　　(TEL) 097-576-8730

配当支払開始予定日　　―

決算補足説明資料作成の有無　　：有

決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	10,658	7.3	613	8.5	600	7.8	365	△42.0
2025年12月期第３四半期	9,936	12.8	565	77.9	557	86.5	630	113.4

(注) 包括利益 2026年12月期第３四半期　655百万円(　10.6%) 2025年12月期第３四半期　592百万円(　53.1%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	11.13	11.01
2025年12月期第３四半期	20.79	20.52

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	16,769	11,540	68.1
2025年12月期	15,640	8,863	55.8

(参考) 自己資本 2026年12月期第３四半期　11,425百万円　　2025年12月期　8,731百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	0.00	―	10.00	10.00
2026年12月期	―	0.00	―		
2026年12月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	5.1	1,000	19.9	1,000	21.0	680	△13.2	20.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　　―社（社名）　　、除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	35,167,729株	2025年12月期	31,593,115株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	14,210株	2025年12月期	1,218,783株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	32,854,559株	2025年12月期３Ｑ	30,315,695株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 ……2
（１）経営成績に関する説明 ……2
（２）財政状態に関する説明 ……3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 ……4
（１）四半期連結貸借対照表 ……4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……5
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 ……5
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 ……6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 ……7
(継続企業の前提に関する注記) ……7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) ……7
(セグメント情報等の注記) ……7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) ……8
(重要な後発事象) ……9

１．経営成績等の概況

（１）経営成績に関する説明

当社グループは、2026年２月に公表した中期経営計画（FY2026～FY2028）のもと、これまで構築してきた成長基盤を活かし、事業の収益性向上と持続的な成長の実現に取り組んでおります。複合技術を組み合わせたソリューションの提供を通じ、「稼ぐ力」の強化を着実に進めております。

当第３四半期連結会計期間においては、ＩｏＴ事業の売上が想定を下回る一方、ペイメントサービスの新市場への展開は順調に進展しました。また、成長分野であるロボット・オートメーション事業では、新たな自動化ソリューションの開発・提案活動を着実に推進しました。

この結果、当第３四半期連結累計期間における売上高は10,658百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益は613百万円（同8.5%増）、経常利益は600百万円（同7.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は365百万円（同42.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第１四半期連結累計期間より、報告セグメントの名称及び一部区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。詳細は、「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」の「３．報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

① ＩｏＴ・ペイメント

モバイルクリエイトのＩｏＴ事業は、当第３四半期会計期間において、大型フロー案件の売上計上がなかったことに加え、通信キャリアの3Gサービス終了に伴う低利用ユーザーの解約により、サブスク型売上が一時的に減少したことなどから、売上高は想定を下回りました。一方、ペイメントサービスでは、ホテルや自治体向けなど、公共交通分野以外の新市場への展開が進展しました。

ケイティーエスのホテルマルチメディアシステムについては、引き続き厳しい事業環境が続くなか、営業体制の強化やサービス基盤の整備を着実に進めております。

当第３四半期会計期間の売上高は伸び悩んだものの、前四半期までの売上実績が寄与し、累計期間では前年同期比で微増となりました。

利益面では、クラウドサービス等のインフラコスト上昇に対応するため、サービス価格への転嫁を進めるなど、収益性の改善に取り組んでおります。

この結果、外部顧客への売上高は6,481百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は934百万円（同13.4%減）となりました。

② ロボット・オートメーション

従来の受託型装置製作を基盤としながら、自社製品の事業化を加速させるとともに、自動化ソリューションの高度化を図り、中長期的な成長に向けた事業基盤の強化に取り組んでおります。

この結果、外部顧客への売上高は4,176百万円（同20.5%増）、営業利益は488百万円（同72.6%増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第３四半期連結会計期間末の資産合計は、16,769百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,128百万円増加しました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産が789百万円減少したものの、現金及び預金が1,267百万円増加したこと並びに投資有価証券が421百万円増加したことによるものであります。

負債合計は、5,228百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,547百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金が321百万円増加したものの、転換社債型新株予約権付社債が500百万円減少したこと及び１年内返済予定の長期借入金並びに長期借入金が1,030百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、11,540百万円となり、前連結会計年度末と比べ2,676百万円増加しました。これは主に配当金の支払により利益剰余金が303百万円減少したものの、新株予約権の行使による株式の発行等により資本金が994百万円増加したこと及び資本剰余金が1,042百万円増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年２月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,889	3,157
受取手形、売掛金及び契約資産	4,336	3,547
リース投資資産	1,417	1,439
棚卸資産	2,118	2,190
その他	767	911
貸倒引当金	△83	△84
流動資産合計	10,447	11,161
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	991	951
土地	763	763
その他（純額）	506	469
有形固定資産合計	2,260	2,183
無形固定資産		
のれん	118	82
その他	890	957
無形固定資産合計	1,009	1,039
投資その他の資産		
投資有価証券	809	1,231
繰延税金資産	67	96
長期未収入金	923	922
その他	131	142
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	1,922	2,384
固定資産合計	5,192	5,607
資産合計	15,640	16,769
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,115	1,436
短期借入金	423	9
1年内返済予定の長期借入金	1,216	841
未払法人税等	246	169
未払消費税等	90	77
賞与引当金	55	266
役員賞与引当金	—	10
製品保証引当金	26	28
その他	1,094	934
流動負債合計	4,269	3,774
固定負債		
長期借入金	1,663	1,008
転換社債型新株予約権付社債	500	—
役員退職慰労引当金	24	26
退職給付に係る負債	185	200
繰延税金負債	133	218
固定負債合計	2,506	1,453
負債合計	6,776	5,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,074	3,068
資本剰余金	2,452	3,494
利益剰余金	4,153	4,215
自己株式	△312	△4
株主資本合計	8,367	10,775
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	352	641
為替換算調整勘定	11	9
その他の包括利益累計額合計	364	650
新株予約権	125	105
非支配株主持分	6	9
純資産合計	8,863	11,540
負債純資産合計	15,640	16,769

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
売上高	9,936	10,658
売上原価	6,951	7,663
売上総利益	2,984	2,994
販売費及び一般管理費	2,419	2,380
営業利益	565	613
営業外収益		
受取利息	2	7
受取配当金	9	11
補助金収入	2	7
その他	9	16
営業外収益合計	23	41
営業外費用		
支払利息	26	24
株式交付費	―	10
その他	5	19
営業外費用合計	31	54
経常利益	557	600
特別利益		
関係会社株式売却益	114	―
投資有価証券売却益	263	―
特別利益合計	378	―
税金等調整前四半期純利益	935	600
法人税、住民税及び事業税	370	308
法人税等調整額	△66	△77
法人税等合計	303	231
四半期純利益	631	369
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	630	365

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
四半期純利益	631	369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△35	288
為替換算調整勘定	△3	△3
その他の包括利益合計	△39	285
四半期包括利益	592	655
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	590	652
非支配株主に係る四半期包括利益	1	2

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

当社は、2025年３月28日開催の第７回定時株主総会決議により、2025年３月31日を効力発生日として、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金から1,448百万円減少し、同額を繰越利益剰余金へ振り替えることにより、欠損填補を行っております。

なお、株主資本の合計額には、著しい変動はありません。

当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

第２四半期連結会計期間において、ストック・オプションの権利行使による新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ８百万円増加しております。

また、2026年４月17日開催の取締役会に基づき、譲渡制限付株式報酬として新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ11百万円増加しております。

並びに、第２四半期連結会計期間において、第１回無担保転換社債型新株予約権付社債、第５回新株予約権及び第６回新株予約権の権利行使が行われ、資本金が974百万円増加及び資本剰余金が1,027百万円増加し、自己株式が309百万円減少しております。

この結果、当第３四半期連結会計期間末において資本金が3,068百万円、資本剰余金が3,494百万円、自己株式が４百万円となっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	ＩｏＴ・ペイメント	ロボット・オートメーション			
売上高					
外部顧客への売上高	6,470	3,465	9,936	―	9,936
セグメント間の内部売上高又は振替高	72	23	95	△95	―
計	6,543	3,488	10,031	△95	9,936
セグメント利益	1,079	283	1,362	△797	565

(注) １．セグメント利益の調整額△797百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

２．セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	ＩｏＴ・ペイメント	ロボット・オートメーション			
売上高					
外部顧客への売上高	6,481	4,176	10,658	―	10,658
セグメント間の内部売上高又は振替高	65	22	88	△88	―
計	6,547	4,199	10,746	△88	10,658
セグメント利益	934	488	1,423	△810	613

(注) １．セグメント利益の調整額△810百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

２．セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2025年12月にドローン及びロボット制御システムに関する事業を営む連結子会社であるciRobotics株式会社の株式の全部を連結子会社REALIZE株式会社に譲渡し、REALIZE株式会社のマシーン事業と一体として事業に取り組むこととしました。

これに伴い、第１四半期連結累計期間より、従来「ＩｏＴ」に区分していたドローン及びロボット制御システムに関する事業を「マシーン」に含め、その名称を「ロボット・オートメーション」に変更するとともに、「ＩｏＴ」の名称を「ＩｏＴ・ペイメント」へ変更いたしました。なお、前第３四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により組替えて表示しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)
減価償却費	354百万円	392百万円

（重要な後発事象）

（連結子会社間の吸収分割及び吸収合併）

当社は、2026年11月13日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社ケイティーエス（以下、ケイティーエス）の事業の一部を、同じく当社の完全子会社であるREALIZE株式会社（以下、REALIZE）の子会社のREALIZE ONE株式会社（以下、REALIZE ONE）に承継させる吸収分割（以下、本吸収分割）及び当社の完全子会社であるモバイルクリエイト株式会社（以下、モバイルクリエイト）を存続会社、モバイルクリエイトの子会社である株式会社トラン及び株式会社M.R.Lを消滅会社とする吸収合併（以下、本吸収合併）を実施すること（以下、本吸収分割及び本吸収合併を総称して本組織再編）を決議いたしました。

また、本組織再編と併せて、当社が保有するケイティーエス及び当社の完全子会社である株式会社プライムキャストの全株式をモバイルクリエイトに譲渡し、両社をモバイルクリエイトの子会社とすることを決議いたしました。

なお、REALIZE ONEは、製造に特化した事業展開を見据え、REALIZEが設立した子会社です。

詳細については、本日公表の「グループ内組織再編（連結子会社間の吸収分割及び吸収合併）に関するお知らせ」をご参照ください。